

淀川水系 神崎川下流ブロックの流域の概要

神崎川、中島川、左門殿川、西島川

平成21年1月

大阪府

目次

1. 流域の概要	
1.1 神崎川下流ブロックの構成(神崎川、中島川、左門殿川、西島川)	1
1.2 神崎川下流ブロック流域市の概要	2
2. 流域の特性	
2.1 自然環境特性	
(1) 地形・地質	
(2) 気候	
(3) 動植物	
2.2 社会環境特性	
(1) 人口	
(2) 土地利用	
(3) 産業	
(4) 公共・レクリエーション施設	
(5) 交通	
2.3 流域の歴史	
(1) 歴史・文化財	
(2) 行事・イベント	

2.4 河川特性	
(1) 河川区間	24
(2) 河川景観	
(3) 水環境	
① 水質	
② 下水道整備	
2.5 水利用と空間利用	
(1) 既得用水の状況	
(2) 河川空間利用	
3 水害の状況	
3.1 過去の被害状況	30, 31
3.2 主要洪水の概要	31, 32
4 地震被害	
5 河川の整備状況	
(1) 河川改修の歴史	
(2) 河道の変遷	
(3) 河川改修事業	42
6 流域の将来像	
6.1 まちづくりに関連する主な計画	
6.2 神崎川ネオ・リバープラン	
6.3 住民意識等と現状の河川整備等に関する課題	45

1 流域の概要

1.1 神崎川下流ブロックの構成（神崎川、中島川、左門殿川、西島川）

神崎川下流ブロックは、神崎川が猪名川と合流する、河口から約7.1km上流の地点から、左門殿川、中島川、西島川を分派して大阪湾に注ぐ区間と分派した3河川の区間の範囲です。神崎川の流域面積は、猪名川と合流した地点で591.1km²となり、神崎川下流ブロック流域の面積は大野下水道排水区域を含む内水域に属しています。

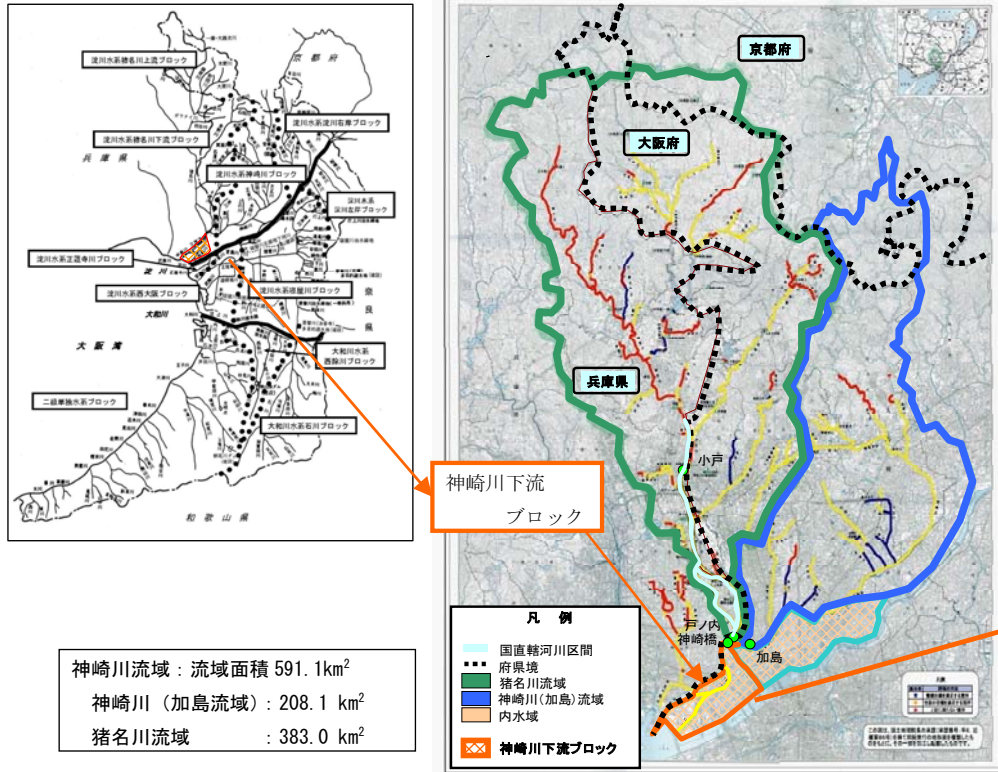


表-1.1.1 対象河川諸元

河川名	河川区間の始点・終点	延長 (km)	備考
神崎川	起点) 大阪湾	7.1	神崎川下流ブロック延長
	終点) 猪名川との合流点 (一級河川神崎川終点： 淀川からの分派点(摂津市一津屋) ※)	18.59※	※一級河川神崎川延長
中島川	起点) 大阪湾 終点) 神崎川からの分派点	2.82	
左門殿川	起点) 中島川への合流点 終点) 神崎川からの分派点	2.57	
西島川	起点) 淀川への合流点 終点) 神崎川からの分派点	1.49	

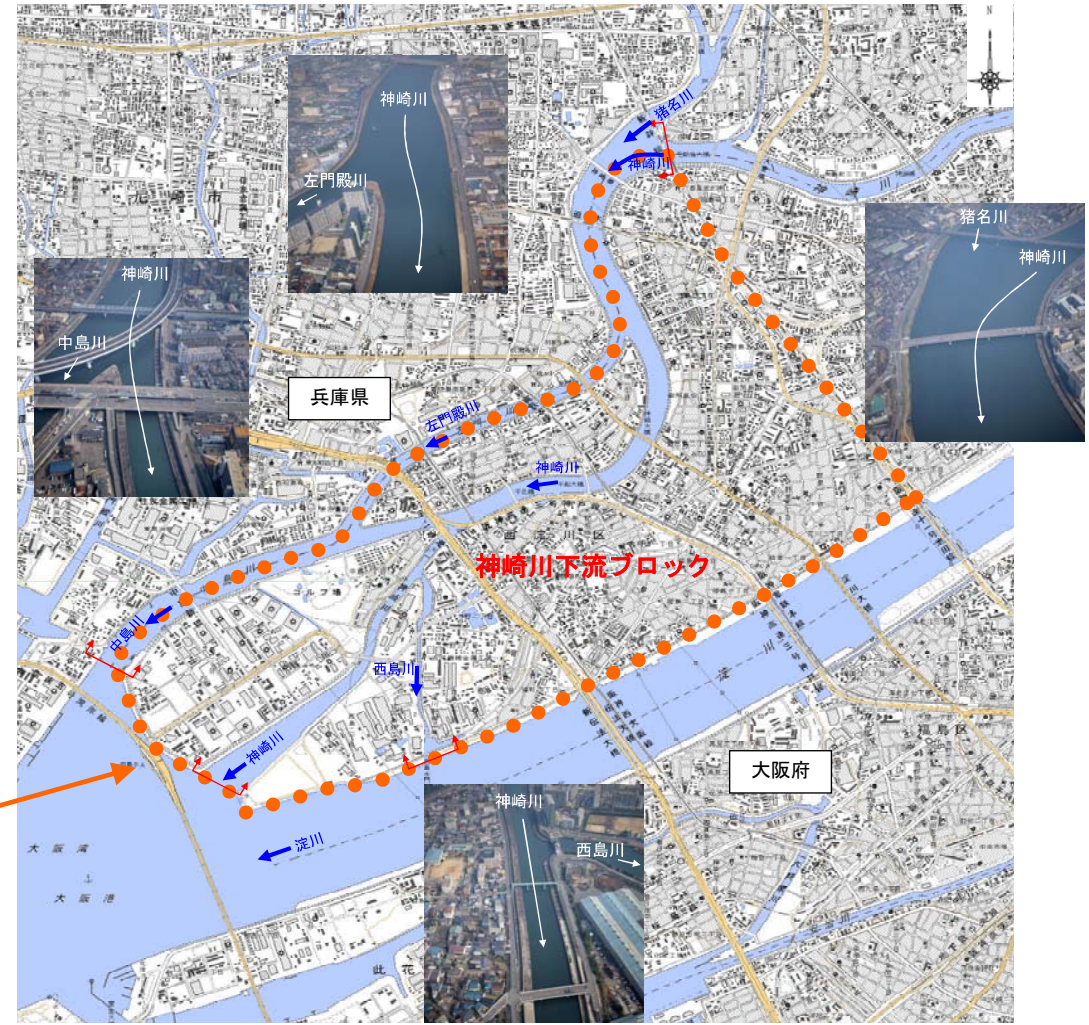


図-1.1.1 神崎川下流ブロック流域位置図

1. 2 神崎川下流ブロック流域市の概要

神崎川下流ブロックに関連する大阪府の自治体は、大阪市西淀川区と淀川区で、大部分を西淀川区が占めています。西淀川区は、古代～現在にかけて環境が大きく変化してきました。

古代には、河川の堆積土砂により形成された土地であることから、舟運が盛んでした。

江戸～明治時代後半には、水辺の地域であることから、農・漁村として発展しました。

明治後半～昭和40年代半ばには、工業地帯としての発展する一方、公害という負の遺産を背負いました。

そして、昭和40年代半ば～現在にかけて、様々な取組みにより公害から再生し、より良好な居住環境の形成を目指した住宅の街へと変化しつつあります。

①古代

古代には、上町台地の北側から生駒山地の麓まで海(河内湾)を形成していましたが、紀元前2～3世紀頃から河内湾・大阪湾に注ぐ河川が運ぶ土砂の堆積等により河内湾の陸化が始まり、上町台地の西に三角州や多数の島々を次第に形成し、辺り一帯は「難波の八十島」と呼ばれました。当地域は、これらの島々を始まりとしています。現在、竹島・御幣島・歌島・佃(島)・出来島・中島・西島など、「島」のつく地名が多いのは、その名残です。

西暦785年に淀川と三国川(現神崎川)との間が開削され、三国川河口の神崎から遡行し淀川へ入る舟運が盛んとなり、その流路に沿う当地域も、次第に開けていくこととなりました。

②江戸～明治時代後半・・・農・漁村としての発展

江戸時代、水運に恵まれた当地は、農・漁村として発展し、幕末までに多くの新田が形成されました。当時の新田開発は、埋立開拓により行われ、現西淀川区域を含む西成郡で盛んに進められました。

しかし、もともと大部分が低湿地帯である西成郡における新田開発は、淀川の度重なる洪水の被害に加え、その滞留水(悪水)がなかなか排けられないなど課題を抱えていました。そのため、延宝6(1678)年に、西淀川区域を縦断し悪水を直接海に導く排水路である中島大水道が建設されました。中島大水道は昭和初期まで利用され、現在では、大野川緑陰道路として区民に親しまれています。

③明治後半～昭和40年代半ば・・・工業地帯としての発展

西淀川区域では、河川沿岸への工場の進出や、阪神電鉄沿線で住宅の増加が見られたものの、明治の終わりごろまでは依然美しい田園地帯が広がり、江戸時代に引き続き農業・漁業が主な産業となっていました。しかし、明治20年頃から紡績、食品、化学などの工場が次々と操業を開始し、目清戦争、日露戦争、第一次世界大戦による軍需産業の隆盛が追い風となり、さらに工場進出が激化していきました。こうして、大正・昭和のはじめにかけて急速に工業が成長し、農業・漁業は次第に衰退していくこととなりました。

阪神工業地帯の中核として工業が発展した当区域においては、時代とともに工場集積が増加し、公害問題も悪化することとなりました。昭和30・40年代にはピークに達し、亜硫酸ガスによる大気汚染で、慢性気管支炎を患う人が多数にのぼりました。当区域の公害は大気汚染に限ったものではなく、工場の過度の地下水くみ上げによる地盤沈下や、河川の汚染をはじめ、様々な面で住環境を脅かしました。

④昭和40年代半ば～現在・・・公害からの再生

西淀川区は、昭和44年「公害に係る健康被害の救済に関する特別処置法」に基づく地域指定を受けましたが、同46年の公害認定患者が2,000人を超え、同49年8月に交付された「公害健康被害補償法施行令」第一号として指定を受けました。

こうした問題に対して、昭和37年には「煤煙の排出の規制に関する法律」が制定され、同40年から大阪市で汚染状況の常時測定が開始されました。そして同48年に、「クリーンエアプラン73」が策定され、大阪市における公害に対する本格的な取り組みが始まり、当区においても「公害の町」からの脱却の道が開かれていきました。

なかでも、中島大水道、大野川は、戦後、農地の宅地化と工場の増加、台風水害による破損などにより、しだいに「どぶ川化」して悪臭を放ち、周辺環境を悪化させていましたが、大阪市により緑道として整備され、全国の住環境整備事業のモデルとなる大野川緑陰道路が完成(昭和54年)しました。

昭和40年代以降の西淀川区は、工業の発展とそれによる公害に悩まされた人々の生活がクローズアップされてきた地区でした。しかし近年、公害に対する住民と行政の取り組みが蓄積され、徐々に良好な住環境が形成されつつあります。また、平成9年には、JR東西線が開通し、交通利便が飛躍的に向上しています。現在、駅近傍の工場跡地にはマンションが建ち、工場の街から住宅の街へと変化しつつあります。

出典：西淀川区まちづくりレポート(平成13年3月)西淀川区役所(一部改編)

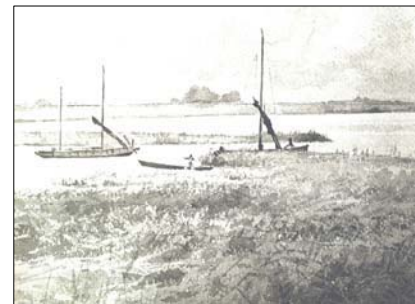


図-1.2.1 明治40年頃の河岸風景

出典：「西淀川今昔写真集」(西淀川区政70周年記念)西淀川区制70周年記念事業実行委員会



図-1.2.2 悪水路と化した大野川(昭和45年)

出典：「西淀川今昔写真集」(西淀川区政70周年記念)西淀川区制70周年記念事業実行委員会



図-1.2.3 大野川の埋立によりできた大野川緑陰道路(平成20年現在)

2. 4. 河川特性

(1) 河川区間

神崎川下流ブロックの河川区間は、猪名川合流後の神崎川と、神崎川から分派する左門殿川、中島川、西島川の4河川で構成され、大阪湾に注ぐ神崎川が最長の6.9kmの延長となっています。分派した左門殿川は中島川に合流し、中島川は大阪湾に注ぎ、西島川は神崎川から分派して淀川に合流します。また、西島川は出来島水門により、洪水や高潮が神崎川から流入あるいは神崎川へ流入を生じさせないことができるようになっています。

川幅は、神崎川は200m以上～100m未満、左門殿川は100m、中島川は200～180m、西島川は100～20mとなっています。河床材料は全川でシルト～細砂の構成です。

全川感潮区間であり、年平均の塩素イオン濃度は左門殿川分派前の神崎橋で1,000～3,000mg/L、神崎川千船橋で3,000～5,000mg/L、中島川合流前の左門殿川辰巳橋で4,000～5,000mg/L（平成12～19年の観測値）であることから、淡水と海水が混じり合った塩分の少ない区域（汽水域）となっていることが分かります。

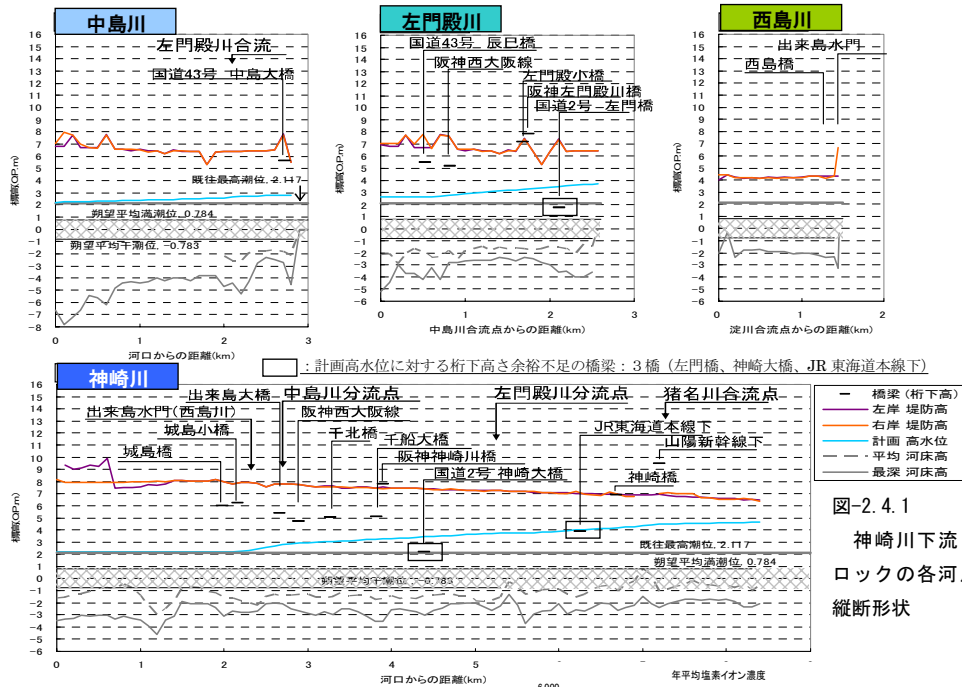


図-2.4.1 神崎川下流ブロックの各河川縦断形状

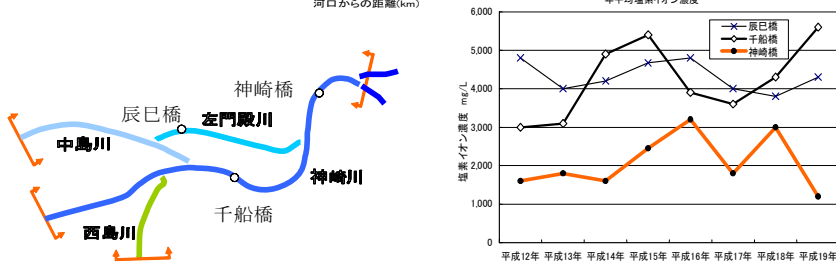


図-2.4.2 塩素イオン濃度の年平均値（平成12～19年）

(2) 河川景観

神崎川下流ブロックは、感潮区間であり高潮対策事業による防潮堤に視界が遮られていることから、堤内地からは河川が見えず、河川景観上考えれば、橋梁からの眺望に限られた状況にあります。

しかし、なにわ自転車道などの高水敷を利用した自転車歩行者道や、佃防災船着場のような水面に近づける施設整備がなされ、河川の風景を眺望できる場所が増えつつあります。

また、矢倉緑地から眺める夕景は、阪神高速道路湾岸線のシルエットを浮かび上がらせ、西淀川区の新しいシンボルとなっています。



写真-2.4.1 防潮堤状況 (1)



写真-2.4.2 防潮堤状況 (2)



写真-2.4.3 橋梁からの眺望（神崎川・城島小橋）



写真-2.4.4 佃防災船着場



写真-2.4.5 矢倉緑地からの眺望

出典：西淀川区役所ホームページ

3. 水害の状況

3.1 過去の被害状況

西淀川区は大阪湾沿岸部に位置するため、洪水による被害に加え、室戸台風をはじめとする高潮被害、地震による津波被害を度々受けてきました。特に、低地であるため高潮による被害が甚大でした。

なお、現在は、河口から旧猪名川付近まで、防潮堤ライン（河口部：OP+8.10m）が昭和47年に概ね完成しています。しかしながら、平成16年の台風18号接近の際に鉄扉を締める事態に至る等、今後も水害発生の危険性があり、引き続き、浚渫などの整備を行っていく必要があります。

また、近年においては集中豪雨による内水被害が頻発しており、平成14年には129戸が床下浸水しています。このような近年の増加する都市型の浸水被害の抜本対策として淀の大放水路の整備が進められています。

表-3.1.1 西淀川区に関わる第二室戸台風（昭和36年）までの洪水・高潮・津波被害記録

発生日	西暦	災害概要
天平勝宝 5.10.9	753	摂津大風海溢漂流 560 余人（続日本記） 発生要因：台風による高潮
弘仁 8.8.20～ 8.9.18	817	潮暴溢漂流 220 人（大日本史） 発生要因：地震による津波
仁和 3.8.26	887	五畿七道諸国大地震海勃起、溺死者無数摂津最甚（大日本史） 発生要因：地震による津波
正平 15.9.13	1360	摂津国難波浦海溢死者数百名（大日本史） 発生要因：地震による津波
文明 7.9.15	1475	京都大風難波浦及尼崎大潮死亡千余命（分類年代表） 発生要因：台風による高潮
弘治 3.9.28	1557	台風攝津播磨潮溢死亡者多（細川両家記） 発生要因：台風による高潮
寛文 10.11.5	1670	大阪台風雨木津川口、四宮川口等潮水溢、123 人溺死 海辺の民家全流出（分類本朝年代記） 発生要因：地震による津波
寛永 4.10.28	1707	諸国大地震海、大阪殊甚死者 3 万余人（年代略記） 発生要因：台風による高潮
宝暦 13.10.9	1763	大阪船舶損害多（泰平年表） 発生要因：台風による高潮
安永 3.7.31	1774	川口の船舶覆没、溺死 1,200 余人（続日本年代一覽） 発生要因：台風による高潮
安政 1.11.5	1854	全国強地震海 起木津川、安治川、心齋橋通も巨船漂流死者 2,000 余人、 落橋 19ヶ所、潰家 203（三災録） 発生要因：地震による津波
明治元年.5.14	1867	淫雨（梅雨）のため、淀川決壊。加島村・御幣島村・福村・大和田村・佃 村・矢倉新田・稗島・蒲田新田・百島新田の堤防決壊。7.14 再度出水。
明治 4年.5.18	1871	高潮。安治川・中津川河口部堤防決壊。矢倉新田、布屋新田水没。
明治 18年 6月下旬	1885	「枚方切れ」：淀川左岸地域の大洪水。被災は七月初旬におよぶ。

出典：西淀川区史 平成8年3月15日発行 西淀川区制七十周年記念事業実行委員会
西大阪の河川 昭和57年3月 西大阪治水事務所工務課企画課

表-3.1.1 西大阪地域の第二室戸台風（昭和36年）までの洪水・高潮・津波被害記録（つづき）

発生日	西暦	災害概要
明治 22年 8月 13日	1889	淀川洪水
明治 24年 8月 16日	1891	高潮。新田の堤防決壊。
明治 29年 7月 21日	1896	神崎川・淀川洪水。稗島・千船・歌島村に被害。
明治 29年 9月 8日	1896	神崎川出水。御幣島・歌島・加島・稗島など浸水。
明治 36年 9月 8日	1903	神崎川氾濫。加島堤防決壊。
大正 6年 10月 1日	1917	「大塚切れ」：淀川大洪水。西成郡内広域にわたり浸水。 区域全体が泥海と化し、福村で地面を見ることが出来たのは、約一ヶ月後。
昭和 9年 9月 21日	1934	「室戸台風」：高潮襲来。区内全域浸水。 西淀川区被害 死者・行方不明者 243 人、重軽傷 505 人 流失・全半壊 516 戸、床上浸水 9,317 戸（淀川南岸の一部含む）
昭和 25年 9月 3日	1950	「ジェーン台風」：高潮襲来。区内全域浸水。 西淀川区被害 死者・行方不明者 58 人、重軽傷者 1,049 人、罹災者数 543,095 人 全壊 198 戸、流出 143 戸、半壊 8,445 戸、床上浸水 6,130 戸、床下浸水 2,614 戸
昭和 28年 9月 25日	1953	「台風 13 号」：淀川洪水。上流京都府下の支川決壊。防災活動によりかろうじて堤防決壊を免れる。
昭和 36年 9月 16日	1961	「第二室戸台風」：高潮で神崎川氾濫。大和田・出来島・御幣島地区など床上浸水。 大阪市全体被害 死者 6 人、負傷者 682 人 流失・全半壊 1,726 戸、床上浸水 51,500 戸、床下浸水 54,000 戸

出典：西淀川区史 平成8年3月15日発行 西淀川区制七十周年記念事業実行委員会
西大阪の河川 昭和57年3月 西大阪治水事務所工務課企画課



大塚の堤防決壊箇所（大正6年）

出典：「西淀川区史」平成8年3月15日発行
西淀川区制七十周年記念事業実行委員会

表-3.1.2 大阪湾において発生した主な高潮の記録(昭和年代以降)

発生年月日	台風名	大阪の 低気圧 (hpa)	大阪の平均最大風速		大阪の 最大瞬間 風速 (m/s)	大阪の 総降雨量 (mm)	大阪の 高潮潮位 (O. P. m)	大阪の 潮位最大 偏差 (m)
			速度 (m/s)	風向				
S8.9.4	第3307号	986.1	18.6	WSW	-	5.9	2.58	-
S8.10.20	屋島丸台風	985.6	13.0	S	-	71.7	2.64	-
S9.9.21	室戸台風	954.4	欠測 (48.4)	S	60.0	22.3	4.50	2.92
S12.9.11	第3706号	984.8	14.5	SW	22.8	44.5	2.70	-
S13.9.5	第3805号	984.8	13.2	SE	19.0	18.9	2.66	-
S19.9.17	第4416号	986.0	18.6	SW	21.8	53.3	2.80	-
S20.9.18	枕崎台風	981.1	19.0	S	22.5	3.2	3.20	-
S25.9.3	ゾーン台風	971.3	28.1	S	44.7	64.7	3.85	2.37
S26.10.15	ルス台風	-	15.7	WSW	24.0	3.2	2.95	1.04
S28.9.25	第5313号	977.1	22.0	NNW	28.9	176.1	2.62	0.30
S34.9.26	伊勢湾台風	956.1	28.9	NE	27.4	58.8	2.54	0.83
S36.9.16	第二室戸台風	937.3	33.3	SSE	33.3	44.2	4.12	2.45
S39.9.25	第6420号	-	19.0	SSW	31.7	41.4	3.72	1.83
S40.9.10	第6523号	-	17.3	S	33.1	60.6	3.19	2.16
S47.9.16	第7220号	971.5	23.2	N	-	117.5	2.87	0.90
S50.8.23	第7506号	977.0	18.9	SW	-	114.5	3.24	1.12
S54.9.30	第7916号	972.0	17.6	WNW	-	83.5	3.04	1.34
S58.9.24	台風10号	993.5	7.8	NE	13.1	239.5	3.91	0.59
H11.9.13	台風16,18号	997.9	12.1	SSW	26.8	43.5	4.21	-

太字は、昭和年代の主要3洪水。

出典：

S8～S54：西大阪の河川 昭和57年3月 西大阪治水事務所

S58～H11：気象要覧及び、潮位観測

表-3.1.3 近年の内水被害 記録

水害発生年月	異常気象名	河川・海岸 等名	市町村名	水害 原因	水害区域面積 (m ²)			被害家屋棟数 (棟)				
					農地	宅地 その他	計	床下 浸水	床上 浸水	半壊	全壊	計
H9.7.2～7.18	梅雨前線豪雨	大野処理区	西淀川区	内水	0	1,700	1,700	24	0	0	0	24
H9.7.2～7.18		大野処理区	西淀川区	内水	0	500	500	5	0	0	0	5
H9.8.3～8.13	豪雨及び台風第11号	大野処理区	西淀川区	内水	0	2,100	2,100	19	0	0	0	19
H11.9.5～9.9	豪雨	大野処理区	西淀川区	内水	0	4,900	4,900	36	0	0	0	36
H11.9.13～9.25	台風第16号・18号及び豪雨	大野処理区	西淀川区	内水	0	104,750	104,750	38	0	0	0	38
H14.10.12～10.16	台風第22号	大野処理区	西淀川区	内水	0	8,200	8,200	129	1	0	0	130
H16.9.28～10.1	台風第21号	大野処理区	大阪市	内水	0	370	370	6	0	0	0	6
H18	その他の異常気象	大野処理区	西淀川区	内水	0	600	600	10	0	0	0	10

出典：水害統計 (H9～H18)

3.2 主要水害の概要

(1) 昭和9年9月水害(室戸台風)

室戸台風は1934年(昭和9年)9月21日午前5時頃に高知県室戸岬付近に上陸し、西日本を中心に大きな被害を与えました。気圧954.4hpa、最大瞬間風速60m、大阪港潮位4.50mを記録しました。大阪市全域では、死者・行方不明者990人、建物の全半壊・流出4,236戸の甚大なものとなり、この台風被害を契機として、高潮対策事業が本格的に着手されることとなりました。西淀川区では、死者・行方不明者243人、重軽傷者505人、建物の全半壊・流出516戸、神崎川の氾濫により、中島・西島・百島・布屋・大和田・佃の各町で工場・住宅が全半壊・浸水など多くの被害を受けました。

表-3.2.1 室戸台風による被害

項目		西淀川区	大阪市	備考
建物被害	全半壊・流出	516戸	4,236戸	香養校 全壊 野里・大和田第一・姫島校 半壊 佃・福・川北・柏里校 大破
	床上浸水	9,317戸	—	淀川南岸の一部を含む
人的被害	死者・行方不明者	243人	990人	
	重軽傷者	505人	—	

出典：西淀川区史 平成8年3月15日発行 西淀川区制七十周年記念事業実行委員会

室戸台風で被災したが流出をまめがれた民家



室戸台風により破壊された西島町中堤防



出典：「西淀川区史」平成8年3月15日発行
西淀川区制七十周年記念事業実行委員会

(2) 昭和25年9月水害（ジェーン台風）

ジェーン台風は、1950年に主に強風により近畿地方や四国地方などに大きな被害を与えました。8月30日に、硫黄島の南西海上で台風28号発生。その後、9月3日10時に徳島県日和佐町（現：美波町）付近に上陸し、台風は淡路島付近を通過、12時頃神戸市垂水区付近に再上陸しました。その後、若狭湾へ抜け、日本海を北東に進み、9月4日4時頃、北海道渡島半島南端に再上陸。台風は北海道を縦断し、オホーツク海へ抜けました。最大中心気圧は940hpa、最大風速50m/sの台風でした。

大阪市全域では、死者・行方不明者221人、重軽傷者18,573人、建物の全半壊・流出46,405戸の甚大な被害となりました。このように被害が甚大になった背景として、戦前より始まっていた地盤沈下も要因の一部と考えられます。

西淀川区では、死者・行方不明者58人、重軽傷者1,049人、建物の全半壊・流出8,786戸、佃・出来島・大和田・中島などの各町が浸水し、水が引くまで約1ヶ月半要しました。

表-3.2.2 ジェーン台風による被害

項目	西淀川区	大阪市	
建物被害	全壊	198戸	46,405戸
	流出	143戸	
	半壊	8,445戸	
	床上浸水	6,130戸	—
	床下浸水	2,614戸	—
人的被害	死者・行方不明者	58人	221人
	重軽傷者	1,049人	18,573人
	罹災者数	71,992人	—

出典：西淀川区史 平成8年3月15日発行
西淀川区制七十周年記念事業実行委員会

表-3.2.3 ジェーン台風後の区内排水状況

地区名	水深 (cm)	当初水深 (cm)	排水完了予定
佃島	30	110	9月11日
出来島	50	240	9月18日
大和田	70	150	9月18日
福	30	60	9月14日
姫島	60	110	9月18日
中島町	60	240	9月20日
大野町	50	190	9月14日
西島町	60	240	9月18日

備考) 昭和25年9月8日午前10時現在大阪市調査

出典：西淀川区史 平成8年3月15日発行
西淀川区制七十周年記念事業実行委員会

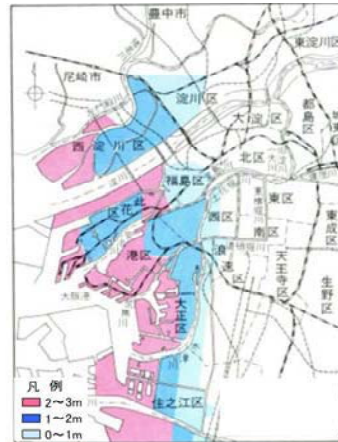


図-3.2.1 ジェーン台風の浸水区域図

出典：大阪湾高潮対策協議会第1回資料 (H19.7)



国道2号

出典：「近畿水害写真集」(昭和56年10月)
近畿地方建設局河川部監修

(3) 昭和36年9月水害（第二室戸台風）

第2室戸台風は、1961年9月16日、高知県室戸岬に上陸し、主に近畿地方に大きな被害を与えました。室戸台風とほとんど同じ進路を取って紀伊水道を北上し、阪神地方に上陸しました。

9月8日、マーシャル諸島近海で発生し、9月12日に中心気圧888hpaまで発達して9月14日に沖縄の南東海上で転向し、9月15日に奄美大島を通過して名瀬で最低海面気圧918hpaを観測しました。その後、9月16日9時過ぎに室戸岬西方に上陸し、中心気圧925hpa、最大風速66.7m/s、最大瞬間風速84.5m/s以上を観測しました。13時過ぎには、兵庫県尼崎市と西宮市の間に再上陸し、日本海沿岸を北北東へ進んでホーツク海で温帯低気圧となりました。

大阪湾の潮位はOP+4.12mに達し、大阪市では、西大阪を中心に、死者6人、負傷者682人、建物の全半壊・流出1,726戸、床上浸水約51,500戸、床下浸水約54,000戸の甚大な被害となりました。

西淀川区では、神崎川が氾濫し、大和田・出来島・御幣島ではほとんどの家屋が床上浸水の被害を受けました。

表-3.2.4 第二室戸台風による被害

項目	大阪市	
建物被害	全半壊・流出	1,726戸
	床上浸水	約51,500戸
	床下浸水	約54,000戸
人的被害	死者	6人
	負傷者	682人

出典：西淀川区史 平成8年3月15日発行
西淀川区制七十周年記念事業実行委員会



図-3.2.2 第二室戸台風の浸水区域図

出典：大阪湾高潮対策協議会第1回資料 (H19.7)



国道2号付近

出典：西淀川区史 平成8年3月15日発行
西淀川区制七十周年記念事業実行委員会



西淀中学校舎へ避難した人びと

④ 耐震補強工事

神崎川では、平成7年の阪神・淡路大震災の被害により、順次、堤防や護岸の耐震補強工事を行っています。

現在、「大阪府土木部地震防災アクションプログラム」（平成10年3月）により、二次災害防止の観点から、直下型地震により被災しても浸水しないまでの堤防高さを確保するとともに、早期に修復可能な損傷に留めるまで耐震性を高める事業を行っています。

なお、平成19年度において「河川構造物の耐震性能照査指針（案）」が策定され、これに基づいたより精度の高い耐震点検の実施が今後の課題となっています。

※「河川構造物の耐震性能照査指針（案）」：対象地点において現在から将来にわたって考えられる最大級の強さを持つ地震動（レベル2地震動）に対する新たな規定

表-5.6 直下型地震対応 護岸再補強計画

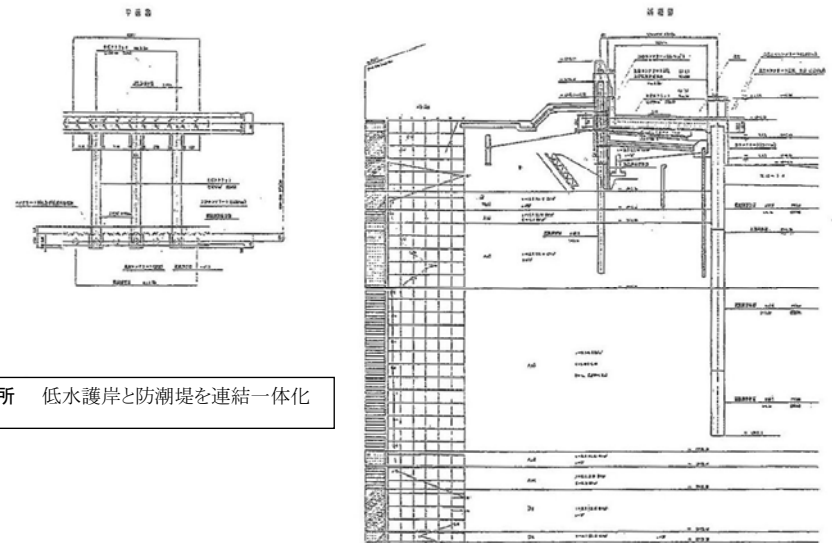
種別	河川名	全体計画 (m)	施工済 (m)	残延長 (m)	合計 (m)
特殊堤	神崎川	2000	1406.5	545	1956.5
	中島川	200	0	200	200
	左門殿川	850	878.3	0	878.3
	小計	3050	2284.8	745	3029.8
土堤	神崎川	1700	583.2	1100	1683.2
合計		4750	2868	1845	4713

備考) 平成18年度末時点



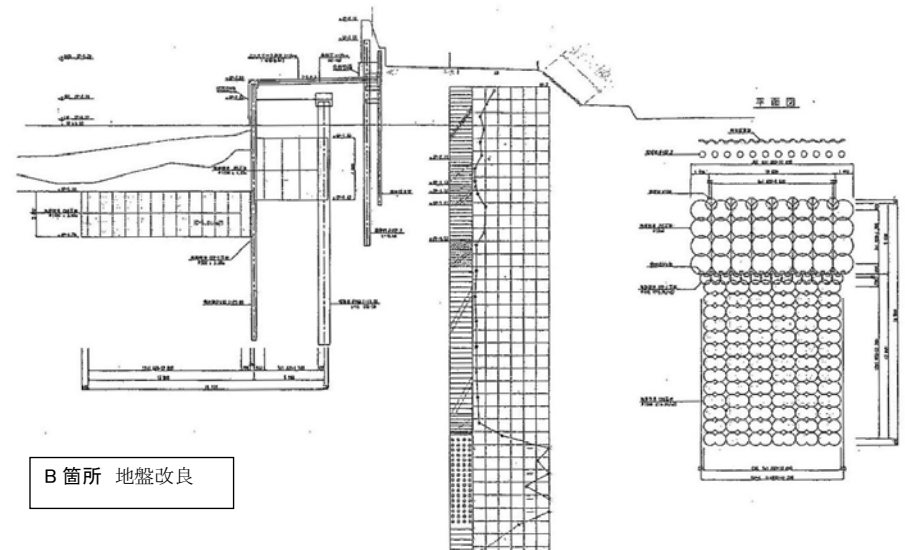
図-5.14 耐震補強箇所位置図（平成20年3月末現在）

資料：西大阪治水事務所 神崎川出張所



A箇所 低水護岸と防潮堤を連結一体化

神崎川城島橋下流左岸補強断面



B箇所 地盤改良

神崎川城島橋下流右岸補強断面

図-5.15 耐震補強箇所横断面

6. 3 住民意識等と現状の河川整備等に関する課題

項目	住民意識・ニーズ・まちづくりの行動アイデア	現時点の状況	今後の対策方針（案）	
治水	<ul style="list-style-type: none"> ・高潮・豪雨による水害、地震による液状化、大きな避難所がないなどの自然災害に対して不安を感じている。（*1） ・高潮災害防御、内水対策。（*2） ・台風・高潮、津波に対し、安心できるまちであってほしい（*3） 	<ul style="list-style-type: none"> ・神崎川全体計画を H9年に策定し、これに基づいて洪水対策として河床掘削、堤防や護岸の耐震補強を実施している。 ・現状で、桁下高さが所定の高さ（HWL+桁下余裕高さ）未滿の橋梁がある。（3橋 左門橋、神崎大橋、JR下東海道線） ・河床掘削においては橋脚補強の必要な橋梁がある。 ・地震や津波対策として、耐震補強が必要な護岸がある。 ・ソフト対策として神崎川浸水想定区域図の公表、防災情報システム（大阪防災ネット）による情報提供。また、国土交通省は淀川洪水氾濫シミュレーション結果、大阪市は防災害マップ（淀川氾濫、津波来襲、内水氾濫、神崎川氾濫）を公表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省淀川河川整備基本方針（H19.8）および河川整備計画（H20.6～意見照会中）との整合。 ・桁下高さ不足の橋梁の解消 ・橋脚補強回避の河床掘削施工法を含めた検討 ・堤防や護岸のより精度の高い耐震点検の今後の実施（「河川構造物の耐震性能照査指針（案）H19年度」策定に基づく）検討 ・ソフト対策の地域への浸透、住民への認知、活用等の向上 	
利水	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・公共機関（大阪市）1箇所が取水している。 	特になし	
環境	生物	<ul style="list-style-type: none"> ・矢倉海岸は、家族で釣りや磯遊びができ、カニや鳥が見られる、水辺の魅力的な野外スポットとして親しまれている。（*4） 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚類はボラ、スズキが生息。 ・底生生物はカワヒバリガイ、モズクガニ、テナガエビなどが生息。2002年に矢倉海岸で「ハクセンシオマネキ（環境庁：準絶滅危惧種）」の生息が確認されたが、その後の報告はされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他機関の調査結果収集なども行い、現状の把握に努める。
	河川水質	<ul style="list-style-type: none"> ・「汚れた臭い水路」というイメージをもっている。（*1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成13年に水質環境基準類型指定の見直しが行われ、「E類型」から「B類型」（BODについては環境基準値は3mg/L以下）に指定変更となった。近年の5カ年のBOD75%値は2.0～3.0mg/Lで推移するようになり、水質は改善されてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民がイメージするこれまでの水質に関する意識の払拭と、現状水質に関する情報の提供に努める。
	景観	<ul style="list-style-type: none"> ・景色に変化がない。（*1） ・一般に落ち着きのある河川風景にふれて、安らぎ、うるおいを感じるような整備が望まれている。（*2） ・西淀川区は川のまちであることを、河川堤防を美化し、公園化してアピールしよう。（*3） ・矢倉海岸は、朝日と夕日が美しい。（*4） 	<ul style="list-style-type: none"> ・パラペットが直立し、変化に富んだ景観は望めない。橋梁からの眺望に限られている。しかし、河川の風景を眺望できる場所として「矢倉海岸」、「佃ふれあい公園」、「なにわ自転車道」が整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ツタ等地被類植生による壁面緑化等による修景配慮の整備の推進。
	空間利用	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の人口に比べ、利用者が少なく、防犯面への不安や、変化のない景色が、神崎川の利用を遠のけている。（*1） ・将来像として公園やきれいな水辺など豊かな生活空間があるまちとして望まれている。（*2） ・「佃ふれあい公園」は、川を見ながら座れるベンチがあり、水辺の魅力的な野外スポットとして親しまれている。（*4） 	<ul style="list-style-type: none"> ・堤外地へのアクセスは困難であるが、「矢倉海岸」、「佃ふれあい公園」、「なにわ自転車道」が利用でき、河川空間の眺望や水辺に接近できる拠点が確保されてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防潮堤により高水敷へのアクセスはできないため、水辺へ近づける既存施設の利用増進、整備の推進。
	レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・未成年（中学生）からは、ボート、スポーツなどの動的な利用が望まれ、全般にサイクリングのニーズが高く、ルート整備が望まれる。（*2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・一連の自転車道等の整備を進めてきており、河川沿いの「なにわ自転車道」、「西島川自転車歩行者道」が利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防潮堤により高水敷へのアクセスはできないため、水辺へ近づける既存施設の利用増進、整備の推進。
維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・神崎川堤防のごみをきれいにしよう。（*3） 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川の不法占用対策、護岸の耐震対策、航路維持。アドプト・リバー・プログラム（佃2丁目堤防）の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や市民団体等との連携・協働への取り組み。 ・引き続き、住民の意識把握に努めるなどの取り組み。 	

備考

(*1)：「神崎川沿川の住民意識調査（大阪府H8.2）」

(*2)：「西淀川区役所住民アンケート調査（大阪市H9年度）」

(*3)：「西淀川区未来わがまちビジョン（西淀川区未来わがまち会議H18.3）」 行動アイデア

同 将来像：「住みやすい西淀川区」

同 まちづくりのテーマ A：緑が豊かなきれいなまち。B：宝がいっぱいあって、それを守るまちにしたい。C：みんなの笑顔があふれるまちにしたい。

(*4)：「区民のくらし情報アンケート調査（大阪市西淀川区H19.10）」